

国際バカロレア (IB) ディプロマプログラム (DP) 科目概要

「言語A：言語と文学」

2021年第1回試験 (SL・HL)

ディプロマプログラム (DP: Diploma Programme) は、16歳から19歳までの大学入学前の生徒を対象とした、綿密に組まれた教育プログラムです。幅広い分野を学習する2年間のプログラムで、知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する心をもつ人間を育成することを目的としています。また、多様な文化の理解と開かれた心の育成に力を入れており、さまざまな視点を尊重し評価するために必要な態度を育むことを目指しています。

DPは、中心となる核(「コア」)を6つの教科が取り囲む構成になっています。生徒は、「言語と文学」(グループ1)と「言語の習得」(グループ2)から現代言語を2言語(または現代言語と古典言語を1言語ずつ)、「個人と社会」(グループ3)から人文または社会科学を1科目、「理科」(グループ4)から1科目、「数学」(グループ5)から1科目、そして「芸術」(グループ6)から1科目を履修します。ただし、「芸術」から1科目選ぶ代わりに、他の教科で2科目選択することもできます。多岐にわたる分野を学習するため、学習量が多く、大学入学に向けて効果的に準備できるようになっています。各教科から柔軟に科目を選択できるため、特に興味のある科目や、大学で専攻したいと考えている分野の科目を選ぶことができます。

通常は、3科目(最大4科目)を上級レベル(HL: higher level)、その他を標準レベル(SL: standard level)で履修します。IBでは、HL科目の学習に240時間、SL科目の学習に150時間を割りあてることを推奨しています。HL科目はSL科目よりも幅広い内容を深く学習します。

これらに加えて、「課題論文」(EE: extended essay)、「知の理論」(TOK: theory of knowledge)、「創造性・活動・奉仕」(CAS: creativity, activity, service)の3つの「コア」要素があります。「コア」科目は必修で、DPの理念の中核を成すものです。

この『IB DP 科目の概要』は以下の3つから構成されています。

- I. コースの説明とねらい
- II. カリキュラムモデルの概要
- III. 評価のモデル



I. コースの説明とねらい

「言語A：言語と文学」のねらいは、複雑でダイナミックな言語の特性を学び、その実用性と美的観点を探究することです。また、コミュニケーション、経験の振り返り、世界の構築において言語が果たす重要な役割、さらには言語の作り手として自分が果たす役割について探ります。コースを通して、言語の選択、テキストタイプ、文学形式、文脈の要素などあらゆるものがさまざまな方法で意味に影響することを学びます。

多様なテキストタイプと文学形式を詳細に分析することを通して、生徒は、自分自身の解釈と他者の批判的観点を考察し、それらがどのように文化的信念に影響されているかを探るとともに、テキストの意味について協議することも学びます。

「言語と文学」のコースは、以下を学習のねらいとしています。

- さまざまな媒体や形式、異なる時代、スタイル(文体)、文化からの多様なテキストに触れる
- 話す、読む、書く、見る、発表する、およびパフォーマンスのスキルを伸ばす
- 解釈や分析、評価のスキルを伸ばす
- テキストのフォーマルで美的な性質への感性を磨き、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる

- テキストと多様なものの見方、文化的文脈、地域とグローバルな問題との関わりについて理解を深め、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる
- 「言語と文学」と他の教科の関係性への理解を深める
- 自信をもち、創造的な方法でコミュニケーションをとり、協働する
- 言語と文学に対して、生涯にわたって関心と喜びをもつように促す

II. カリキュラムモデルの概要

シラバスの構成	推奨される授業時間数	
	SL	HL
読者、作者、テキスト	50	80
時間と空間	50	80
テキスト間の関連性：テキストをつなげる	50	80
総授業時間数	150	240

III. 評価のモデル

このコースでは、生徒が以下の評価目標に到達することを目指します。

1. 知識、理解、解釈：
 - 多様なテキスト、作品、およびパフォーマンス、それらの意味と含意
 - テキストが書かれた文脈と受けとられる文脈
 - 文学的、文体的、修辭的、視覚的、そしてパフォーマンス技術的な要素
 - テキストタイプと文学形式の特徴
2. 分析と評価：
 - 言語の使い方がどう意味を生成するか
 - 文学的、文体的、修辭的、視覚的、または演劇技術の使用法と効果
 - さまざまなテキスト間の関係性
 - 人間が抱える問題に対して、テキストがどのような見解をもたらしているか
3. コミュニケーション：
 - 明確で論理的、説得力のある方法で考えを表現する
 - さまざまなスタイルや言語使用域（レジスター）を用い、多様な目的と状況に応じて表現する
 - 考え、感情、人物、雰囲気をもパフォーマンスを通じて表現する（「文学とパフォーマンス」のみ）

評価の概要

評価の種類	評価の形式	評価時間 (時間数)		最終的な 成績に 占める割合 (%)	
		SL	HL	SL	HL
外部評価					
試験問題1： 設問つき テキスト分析	異なるタイプの非文学テキストから抜粋された初めて読む課題文を、設問を使いながら分析する。	1.25	2.25	35	35
試験問題2： 比較小論文	4つの設問のうちの1つについて、2つの文学作品に基づいて比較小論文を書く。	1.75	1.75	35	25
HL小論文	記述コースワーク課題：学習した文学作品1つ、または非文学作品体系について1200～1500語（日本語の場合は2400～3000字）の小論文を書く。				20
内部評価					
個人口述	学習した文学作品1つおよび非文学作品体系1つが、共通のグローバルな問題にどのようにアプローチしているかについて、あらかじめ用意した答えを口述する。			30	20

IBについて：IBは、過去50年以上にわたり、質の高いチャレンジに満ちた教育プログラムとしての定評を築いてきました。国際的な視野をもって21世紀の現実の課題に対応することで、より良い、より平和な世界の創造に貢献していくことのできる若者を育成しています。

DPについての詳細は、IBのウェブサイト (www.ibo.org/en/programmes/diploma-programme/) でご覧いただけます。

『指導の手引き』の完全版は、IBのプログラム・リソース・センターからアクセスできるほか、IBストア (store.ibo.org) でご購入いただけます。

DPが、大学での成功に向けた素地づくりにどのように貢献するかについてはIBのウェブサイト (www.ibo.org/en/university-admission) をご覧ください。